

事務所通信 リソース

8月号 VOL. 98



安心が私たちの商品です

税理士法人 中央総合会計

■ 旭川事務所 〒070-0037

旭川市7条通13丁目 59 番地 4

TEL: 0166-25-4131

FAX: 0166-25-4132

E-mail: cyuou@csk-i.com

URL: <http://csk-i.com>

■ 北見事務所 〒090-0023

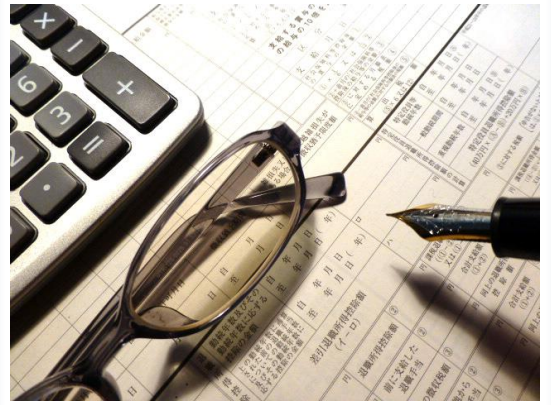
北見市北 3 条東 2 丁目 14 番地

TEL: 0157-24-8866

FAX: 0157-24-6108

E-mail: [@mocha.ocn.ne.jp">cyuou-kitaimi](mailto:cyuou-kitaimi)

@mocha.ocn.ne.jp



8月は「フーテンの寅さん」とゆかりの深い月です。国民的映画『男はつらいよ』の第1作目が公開されたのは1969年8月。寅さんを演じた渥美清さんが亡くなったのは1996年8月。寅さんがお盆にふらっと柴又まで帰って来ることはもうありませんが、今でも空の上で自由気ままな旅を続けているのでしょうか。

【印紙税】で通帳がなくなる？

所得税や法人税は所得（利益）に課税されますし、贈与税や相続税は財産の移転に対して課税されます。また、消費税や酒税のように消費に対して課税されるものもあります。そのような中で印紙税は経済取引に際して作成される文章に課される税です。

平成二十八年度の国の税収は約5.5兆円でした。そのうち印紙税の収入は約1兆円で1.8%を占めています。印紙税は私たちが持っている通帳においても課税されています。金融業界は近年の低金利によって収益が悪化しているため、一層の経費削減を目指さなければならぬ状況です。

そのため金融業界で年間約700億円かかる印紙税を、ペーパーレス化することによって削減するという動きがあるようです。銀行などにとって、ITと金融サービスを融合したフィンテックの発展によりペーパーレス化を進めることは、印紙税や発行コストなどの削減と事務作業の軽減といったメリットがあります。

一方、利用者にとっても通帳を持ち歩く必要がなくなったり、スマホなどから入出金情報をリアルタイムで確認するといったことができるというメリットがあります。



したがって、将来は原則紙の通帳はなくなり希望する時は、手数料が発生することになるかもしれません。今後、ITやAIなどの発展によりさまざまなことが変化し、それに伴い税制にも大きな影響を与えていくように思います。

【退職のご挨拶】

この度、私事ですが7月31日をもって中央総合会計を退職いたしました。

入社して12年の月日が経ちましたが、お客様と共に様々なことを経験させて頂き勉強させて頂きました。経験の浅かった頃から担当させて頂いたお客様につきましては、精一杯の対応をしてきた気持ちではおりますが、ご迷惑をお掛けしたこともあったと思います。それでもお客様から頂く言葉に支えられ、たくましくなってここまで続けてこれました。また退職に際しては皆様方から温かいお言葉を頂きまして、本当にありがとうございました。

中央総合会計での貴重な経験を心の糧として、次の人生に向けて出発したいと思います。

皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

立岡 敬子

今月の教えてキーワード:【ミレニアル世代】

ミレニアルとは
千年紀の」とい
う意味で、アメリ
カで2000年代
に成人あるいは
社会人になる世
代のこと。

1980年代か
ら2000年代初
頭までに生まれ
た人を指すこと
が多く、それ以前
の世代とは消費
行動や価値観な
どが異なるとさ
れる。生まれたと
きからIT機器
やインターネット
が普及している
環境であること
から「デジタルネ
イティブ」とも呼
ばれる。
日本において
もマーケティング
や人事管理の領
域で注目を集め
ている。

【フーテンの寅から学ぶマーケティング】

「わたくし、生まれも育ちも東京葛飾柴又です。帝釈天で産湯を使い、姓は車、名は寅次郎。人呼んでフーテンの寅と発します」。



テンポの良いおなじみの名セリフを懐かしく思い出す方も多いでしょう。

鞆ひとつで日本全国を気ままに旅する寅さんは、日本人が憧れる「小さな自由」を映画の中で具現しているのかもしれませんが、寅さんのあの自由さはどこからやって来るのか。「フーテン」とは仕事も学業もしないでブラブラしている人のことですが、寅さんは、実はたいした商売人だったのではないのでしょうか。『男はつらいよ 拝啓寅次郎様』にこんなシーンがありました。

靴の会社で営業をしている甥っ子の満男が、仕事がつまらないと愚痴をこぼします。それを聞いた寅さんは、そのへんにあった鉛筆を満男に渡して「オレに売ってみな」と言うのです。満男はしぶしぶと「この鉛筆を買ってください」、「消しゴム付きですよ」と特長をアピールし寅さんにセールスしますが、「俺は字を書かないから鉛筆なんていらねえよ」とすげなく断られてしまいます。満男が「こんな鉛筆は売りようがない」とさじを投げると、寅さんは満男から鉛筆を取り上げて「この鉛筆を見るとな、おふくろのことを思い出してしょうがねえんだ」と、鉛筆にまつわる話をしみじみと語り始めます。もちろん即興の作り話ですが、これが実にうまいのです。本当に懐かしそうに鉛筆を見ながら情感たっぷりにあの名調子で語ると、その場にいた家族全員が寅さんの話に心を奪われ、その鉛筆が欲しくなってしまうのでした。

鉛筆を「モノ」として「機能的価値」、すなわち書いたり消したりしながら文字を紙に記録する機能売ろうとした満男と、鉛筆の「情緒的価値」、すなわちそれを持ったり使ったりする事で得られる心理的価値を伝えた寅さん。つまり寅さんは、現代において物売るという事は機能的価値より情緒的価値に重きを置くことの重要性を満男に実演して見せたのです。「どのような情緒的な価値を自社の商品やサービスに付け加えるか」今一度、見つめ直してみたいですね。

税理士法人 中央総合会計 代表税理士 井内 敏樹

成功や失敗ではなく
この壁を越えてみたい

今を生きる!

先人の言葉

日本の登山家である栗城史多のぶかすの言葉。目の前に立ちほだかる大きな壁。それは限界を決めている自分自身という壁かもしれない。さあ乗り越えよう!

【10年後の仕事図鑑】

「人間の仕事の半分を機械に奪われる」という英国の大学教授の論文が話題になりました。本書ではAIにも他人にも簡単に代替されない、希少価値が高く、複雑な仕事を行う戦略について熱く語られています。

未来が期待にあふれる一冊です。

